

# 第27回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成27年1月

応募者名：福岡県、久留米市

事業の名称：(都)東合川野伏間線街路事業

実施都市名：福岡県久留米市

## 事業目的

久留米市の広域幹線道路は、国道3号、国道209号、国道210号等の7路線で形成されています。これらの道路は市中心部から市街へ放射状に伸びており、各方面への移動に当たっては、市中心部を通過する必要があることから、慢性的な渋滞が発生していました。

そのため、市中心部に集中する交通の分散化と都市交通ネットワークの確立を図るとともに、沿道の土地利用促進を目的として、放射状の幹線道路をつなぐ環状道路の整備を行ったものです。

## 事業概要

**事業名称:** 東合川野伏間線整備事業

**路線名:** 都市計画道路3・3・6号東合川野伏間線

**事業箇所:** 久留米市東合川町～久留米市国分町

**事業延長:** L=2, 820m(福岡県1,560m、久留米市1,260m)

**幅員:** W=25m 4車線

**事業費:** 219億円(福岡県 約152億、久留米市67億)

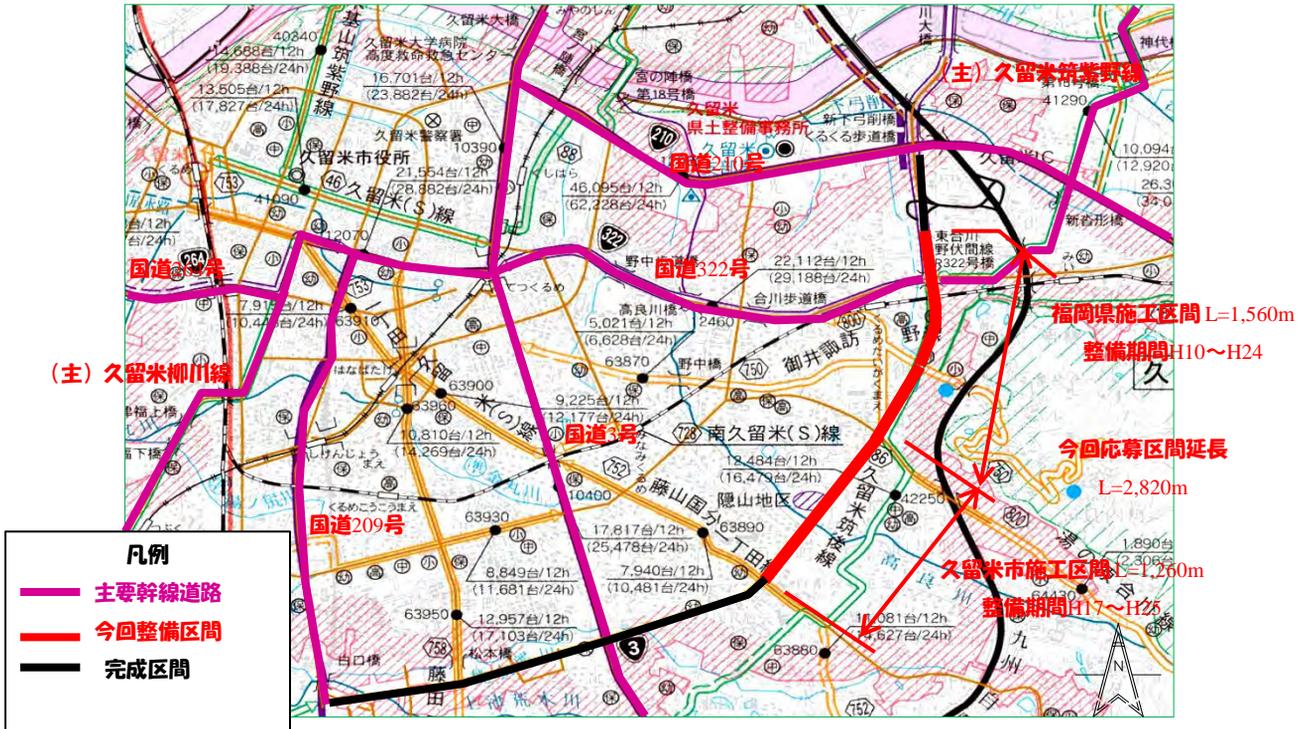
**事業実施期間:** 平成10年～平成25年

(県H10～H24、市H17～H25)

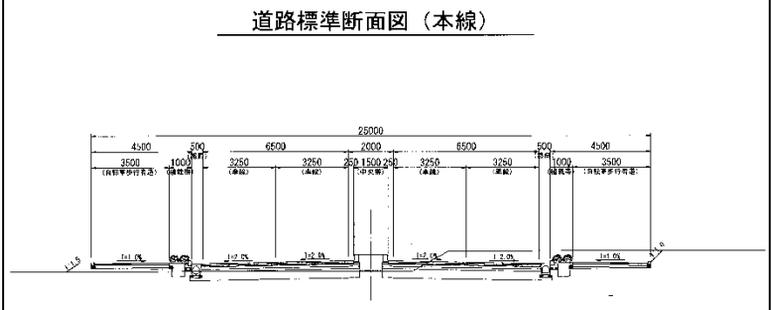
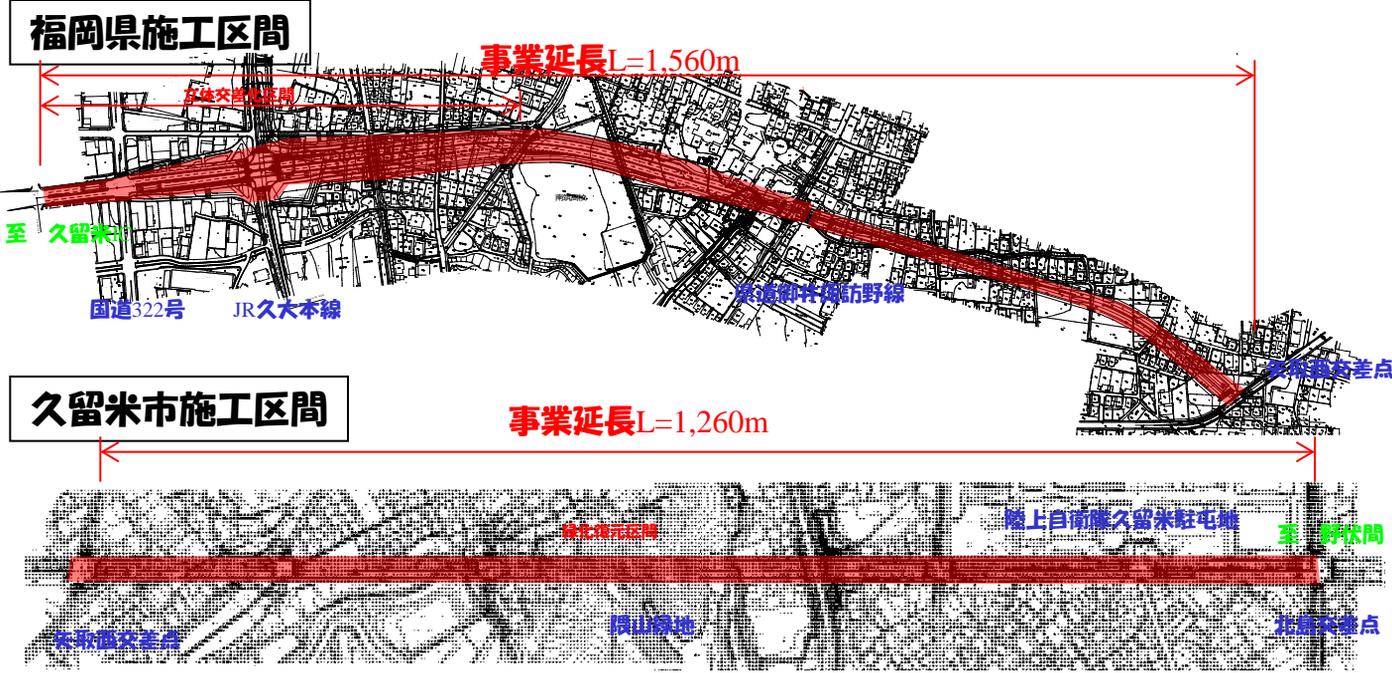
今回の整備区間は、本路線において、最後の未開通区間である2,820mを、福岡県・久留米市にて整備を行ったものです。このことにより、全線の整備が完了し、久留米市初の環状道路が誕生しました。整備後は、市中心部の混雑緩和や久留米インターへのアクセスが大幅に向上するなどの事業効果が発揮されており、市の交通円滑化に寄与しております。

また、県区間におけるJR久大線、国道322号、市道2路線との立体交差化(アンダー)や、市区間における風致地区の緑地復元のためアーチカルバートによる「トンネル構造」など久留米市でも数少ない大規模な構造が特徴です。

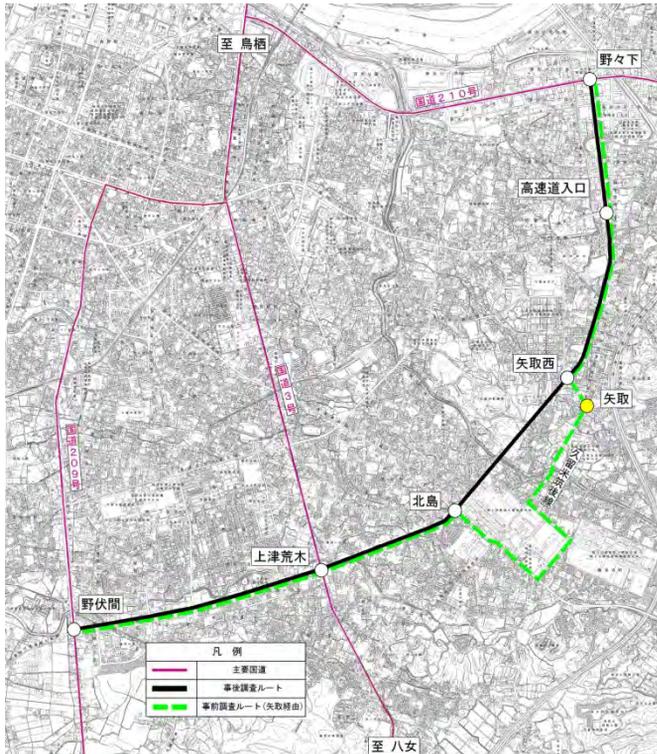
# 事業位置図



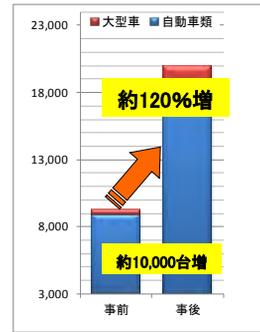
## 全体図(平面図・側面図・横断面図)



# 東合川野伏間線の整備効果アピール資料

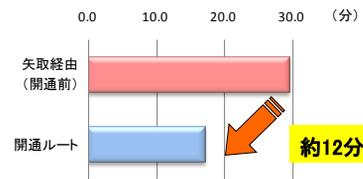


## 開通区間の交通量



調査日	H25.11.13 事前	H26.10.30 事後
交通量	9,212 (台/12h)	19,930 (台/12h)

## 【野伏間交差点→野々下交差点(矢取経由)】



※開通前H25年11月13日 7時30分～9時30分の平均データ  
 ※開通後H26年10月30日 7時30分～9時30分の平均データ

## ○事業概要

事業名: 東合川野伏間線整備事業  
 路線名: 都市計画道路3・3・6東合川野伏間線  
 事業箇所: 久留米市東合川町～久留米市国分町  
 事業延長: L=2,820m(県1,560m、市1,220m)  
 幅員: W=25m  
 総事業費: 219億円(県約152億、市約67億)  
 事業期間: 平成10年度～平成25年度

## ○交通量調査結果

- ・開通区間の交通量  
 供用前 9,212(台/12h)  
 供用後 19,930(台/12h)
- ・交通量の推移  
 (県)久留米筑後線 約5,000台減
- ・開通区間の移動時間  
 供用前後 約12分短縮

## 「整備効果」

- 移動時間の短縮(通勤時間ピーク時の路線間12分短縮)  
 市の北東部と南西部の地域間のアクセスが飛躍的に向上しました。

## 「その他の事業効果」

- 交通渋滞の緩和  
 集中する交通の分散化で中心市街地の渋滞緩和が実現しました。
- 地域防災活動の支援  
 防災時にも移動しやすい片側2車線道路の十分な道幅を確保した新たなルートができることで救助活動の円滑化が図られました。
- 沿道の土地利用促進  
 交通の利便性向上により、沿道地域の付加価値が上がり、住宅地や商業地として周辺地域の土地利用が図られました。

# 事業前写真

平成17年7月撮影



平成20年4月撮影

平成20年4月撮影





